

**スポーツ施設の利用目的に関する一考察
－公共スポーツ施設と民間スポーツ施設の利用者に着目して－**

阿部 征大・清宮 孝文・依田 充代

**Discussion on the purpose of using sports facilities:
focusing on users of public and private sports facilities**

Yukihiro Abe, Takafumi Kiyomiya, Mitsuyo Yoda

神戸医療未来大学紀要 第23巻 第1号

(令和4年12月)

＜原著＞

スポーツ施設の利用目的に関する一考察
—公共スポーツ施設と民間スポーツ施設の利用者に着目して—

阿部 征大¹⁾・清宮 孝文²⁾・依田 充代³⁾

Discussion on the purpose of using sports facilities:
focusing on users of public and private sports facilities

Yukihiro Abe¹⁾, Takafumi Kiyomiya²⁾, Mitsuyo Yoda³⁾

This study clarified the purpose of using public and private sports facilities and examined the differences, focusing on users. A survey was conducted through an Internet survey company, targeting 600 users of exercise and sports facilities nationwide. Five factors were extracted through a factor analysis on the purpose of using public sports facilities: “active inclination toward sports,” “physical fitness and health,” “inclination toward being refined,” “effects of exercise,” and “accessibility.” Seven factors were extracted for the purpose of using private sports facilities: “reputation,” “physical fitness and health,” “relationship with friends,” “inclination toward competition,” “facility conditions,” “accessibility,” and “self-improvement.” For both public and private sports facilities, “physical fitness and health” showed the highest value in factor scores, and “physical fitness and health” and “accessibility” were extracted for both types of facilities. Furthermore, the “effects of exercise” factor was extracted only for public sports facilities. The purposes of using private sports facilities were clearly distinguished, and when two or more factors for private sports facilities were combined, they formed factors for the purpose of using public sports facilities.

Key words : sports facilities, purpose of using, exploratory factor analysis
スポーツ施設、利用目的、探索的因子分析

1. 緒言

スポーツ基本法において、「スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動であり、今日、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化

的な生活を営む上で不可欠のもの」¹⁾とし、「国民生活における多面にわたるスポーツの果たす役割の重要性を鑑み、スポーツ立国を実現することは、二十一世紀の我が国の発達のために不可欠な重要課題である」と明記されている。さらに、スポーツ推進のために基本的条件の整備を行ううえでスポーツ施設を「利用者の需要に応じたスポーツ施設の運用

1) 神戸医療未来大学 (Kobe University of Future Health Sciences) 〒679-2217 兵庫県神崎郡福崎町高岡1966-5
2) 静岡産業大学 (Shizuoka Sangyo University) 〒438-0043 静岡県磐田市大原1572-1
3) 日本体育大学 (Nippon Sport Science University) 〒227-0033 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1221-1

の改善、スポーツ施設への指導者等の配置その他の必要な施策を講ずるよう努めなければならない¹⁾と掲げている。第3期スポーツ基本計画²⁾においては、現状、住民の誰もが気軽にスポーツに親しむことのできる場の量的・質的な充実が求められるとし、民間スポーツ施設や大学スポーツ施設も含め、地域に存在する多様なスポーツ施設の有効活用を推奨することを具体的な施策として掲げている。我が国の体育・スポーツ施設は、学校体育・スポーツ施設113,054箇所（60.4%）、大学・高等専門学校体育施設6,122箇所（3.3%）、公共スポーツ施設51,611箇所（27.6%）、民間スポーツ施設16,397箇所（8.8%）が存在し、施設設置数は187,184箇所と報告されている。体育・スポーツ施設は、平成8年以降継続して減少しており、主に学校体育・スポーツ施設と公共スポーツ施設が減少傾向にあり、学校体育・スポーツ施設は学校の統廃合や施設の老朽化等、公共スポーツ施設は公立社会教育施設に附帯するスポーツ施設の減少によるものと報告されている³⁾。一方で、民間スポーツ施設は、平成27年調査時と比べ増加している。このように、体育・スポーツ施設は減少傾向にあると報告されているが、スポーツの果たす役割は大いに期待されている。本研究では、スポーツを行う場である施設に着目し、施設数が増加し需要の増している民間スポーツ施設と施設数は減少しているが、設置数が2番目に多い公共スポーツ施設を対象とする。

スポーツ施設に着目している研究は多く行われており、公共スポーツ施設利用者の特性や満足度に着目した研究⁴⁾では、施設の利用目的を単純集計で報告している。その結果、上位項目は「健康の維持・増進」「チームでの活動」「競技力向上のためのトレーニング」であった。さらに、石井・石川（2000）の研究⁵⁾では、施設の利用目的は「健康のため」

「運動不足の解消」「ダイエットのため」「体力向上」の順に多かったと報告され、施設の利用目的は単純集計で得られた情報が蓄積されている。一方で、スポーツ庁⁶⁾は、スポーツを実施した理由を「健康のため」「体力増進・維持のため」「運動不足を感じるから」「楽しみ、気晴らし」等の11項目で調査を実施している。このように、施設を利用する目的とスポーツを実施する目的は類似する項目も存在する。施設の利用目的に関する研究の蓄積は基本的な情報の整理に留まっており、調査項目数も限定されて調査されている傾向があるため、施設を利用する目的を広範に捉えて検討していく必要性が考えられる。

また、神野ら（2009）の研究⁴⁾では、満足度を構成する「環境・対応」「内容・行事」「規定・案内」「手続き・予約」「設備・整備」の5因子を抽出している。公共スポーツ施設利用者のサービスに対する態度のモデル検証を行った研究⁷⁾では、スポーツ施設のサービスの根幹となる「中核」、ヒューマン・サービスに関する「人的資源」、サービスの時間に関する「時間」、料金に見合うサービスに関する「価値」の4因子とサービス・クオリティの構造を明らかにし、このサービス・クオリティが高く評価されることで利用者の満足度が向上すると指摘している。このように、利用者の満足度や施設のサービスについて構造化が実施されている。さらに、公共スポーツ施設利用者のライフスタイル構造を明らかにした研究⁸⁾では、「休息」「交友関係」「充実感」「体力・健康」「家族」「ストレス解消」の6因子が抽出され、公共スポーツ施設利用者のスポーツ行動を構造化した研究⁹⁾では、「流行志向」「地域生活満足」「みるスポーツ」「個性化」「運動・スポーツ継続」の5因子が抽出されている。これらは、主にスポーツ施設の利用者側に重きを置いた研究であり、ラ

ライフスタイルやスポーツ行動の構造化も実施され、近年のスポーツ施設に着目した研究は、様々な構造化が蓄積されており、スポーツ施設利用者の視点から施設との関わりについて検討する必要性が挙げられる。また、民間スポーツ施設会員の社会階層とライフスタイルの関係性を明らかにした研究¹⁰⁾では、多様な社会階層であり、健康・レジャー探索の指向を持つ人が会員であると指摘している。さらに、潜在的民間利用者と公共継続利用者のベネフィット因子（心身開放因子・地位確信因子・交流因子・健康維持因子・自己向上因子）を抽出し、比較検討が実施¹¹⁾されていることから、民間スポーツ施設と公共スポーツ施設を比較し差異に着目する必要がある。

以上のことから、スポーツ施設研究は利用者の満足度や施設のサービス、ライフスタイル、スポーツ行動、公共スポーツ施設利用者の民間スポーツ施設への以降の要因等が実施され、スポーツ施設研究は、多角的な視点から構造化され研究が蓄積されている。しかし、スポーツ施設利用者の施設の利用目的については、先行研究にて取り扱われているが、構造化されている研究は乏しい。よって、利用目的の要因を明らかにすることは、スポーツ施設マネジメントの観点からも重要な要素になると考えられる。

そこで、本研究は、スポーツを行う場である公共スポーツ施設と民間スポーツ施設利用者に着目し、施設を利用する目的を構造化して両施設の差異について検討することを目的とした。

2. 研究方法

2.1 調査対象者

本調査はインターネット調査会社（ネオマーケティング）を通し、2021年7月8、9日

に全国の運動・スポーツ施設利用者600名（部活動・サークル活動などの団体利用は含めず、個人・家族・友人との利用の20歳以上に限定）を対象にアンケート調査を実施した。本研究は、公共スポーツ施設と民間スポーツ施設を対象としているため、学校体育・スポーツ施設利用者の64名と大学・高専体育施設利用者の5名の計69名を除外し531名を分析対象とした。本調査はインターネット調査会社を通じて行ったため、調査対象者に対し、調査実施前に調査内容およびデータの使用方法等の説明や同意については調査会社へ委託した。その際、無記名による調査のため、調査対象者に不利益が被らないことの旨を調査会社へ伝えた。尚、本調査は神戸医療未来大学倫理審査委員会の承認（管理番号：2020015）を受けて行った。

2.2 調査項目

2.2.1 対象者の属性に関する設問

基本的属性は、「性別」「年代」「職業」「居住地域」を設定した。居住地域に関しては47都道府県を選択肢として設定し地域区分した。

2.2.2 スポーツ施設利用について

調査対象者の運動・スポーツ施設利用に関して、「利用施設（公共スポーツ施設/民間スポーツ施設）」「スポーツ施設を利用する目的」を設定した。利用施設に関しては、スポーツ庁²⁾が分類した「学校体育・スポーツ施設」「大学・高等専門学校体育施設」「公共スポーツ施設」「民間スポーツ施設」を選択肢とし、その中から「公共スポーツ施設」及び「民間スポーツ施設」を最も利用している施設と回答した調査対象者のみを分析対象とした。

「スポーツ施設を利用する目的」に関しての調査項目は、47項目を設定した。その際、

「非常にあてはまる…7」「あてはまる…6」「ややあてはまる…5」「どちらでもない…4」「あまりあてはまらない…3」「あてはまらない…2」「全くあてはまらない…1」の7件法で回答を求めた。尚、質問紙項目に用いた「スポーツ施設を利用する目的」は、神野ら⁴⁾、秋吉⁷⁾、スポーツ庁⁶⁾、石井・石川⁵⁾、仲澤¹²⁾、藤井・石川¹³⁾、長岡・赤松¹⁴⁾、永田ら¹⁵⁾を参考に作成した。

2.3 分析方法

本調査の統計処理はSPSS Statistics 25を用い、有意水準は5%未満とした。

2.3.1 単純集計

調査により得られた結果について、「調査対象者の属性」及び「主な利用施設（公共スポーツ施設／民間スポーツ施設）」について単純集計を行った。尚、今回の分析では集計したリッカート尺度（7件法）を数値として扱い、平均値及び標準偏差を求めた。

2.3.1 t検定（独立したt検定）

属性別にスポーツ施設を利用する要因を明らかにするため、t検定による属性比較を行った。属性による比較対象は、「男性」と「女性」、「40代以下」と「50代以上」、「定職あり」と「定職なし」である^{注)}。

2.3.2 探索的因子分析

「スポーツ施設を利用する目的」公共スポーツ施設利用者・民間スポーツ施設利用者ごとに対し、主因子法・Promax回転により探索的因子分析を試み、削除する項目の基準値は因子負荷量 <0.500 とした¹⁶⁾。抽出された因子に対しては、Cronbachの α 係数から信頼性の検証を行い、基準値は α 係数 >0.70 とした¹⁷⁾。

3. 結果

3.1 主な利用施設（公共スポーツ施設／民間スポーツ施設）

調査対象者の主に利用している運動・スポーツ施設は「公共スポーツ施設」49.1%、「民間スポーツ施設」50.9%という結果であった。

3.2 調査対象者の属性

表1、2は、調査対象者の属性について示した結果である。公共スポーツ施設利用者の性別は「男性」78.1%、「女性」21.9%であり、年代は「20代」4.5%、「30代」8.9%、「40代」23.9%、「50代」32.0%、「60代」31.8%という結果であった。民間スポーツ施設利用者の性別は「男性」68.3%、「女性」31.7%であり、年代は「20代」5.6%、「30代」8.1%、「40代」25.0%、「50代」32.0%、「60代」29.2%という結果であった。公共スポーツ施設利用者の職業は、「会社経営者・役員・団体役員」1.2%、「会社員・団体職員（正社員、教員）」47.8%、「会社員・団体職員（派遣、契約社員）」6.1%、「自営業・個人事業主・フリーランス」7.7%、「自由業」1.2%、「公務員」4.5%、「学生」0.4%、「主婦・主夫（専業）」6.9%、「パート・アルバイト・フリーター」9.4%、「無職・休職中・求職中」13.4%、「その他」1.2%という結果であった。民間スポーツ施設利用者の職業は、「会社経営者・役員・団体役員」4.9%、「会社員・団体職員（正社員、教員）」47.5%、「会社員・団体職員（派遣、契約社員）」3.9%、「自営業・個人事業主・フリーランス」9.2%、「自由業」0.4%、「公務員」3.5%、「主婦・主夫（専業）」12.3%、「パート・アルバイト・フリーター」9.2%、「無職・休職中・求職中」8.8%、「その他」0.4%という結果であった。公共スポーツ施設利用者の居住地域は、「北海道・東北地方」6.5%、「関東地方」47.8%、「中部地方」

17.8%、「関西地方」13.4%、「中国地方」6.5%、「四国地方」2.0%、「九州・沖縄地方」6.1%という結果であった。民間スポーツ施設利用者の居住地域は、「北海道・東北地方」6.3%、「関東地方」49.6%、「中部地方」15.5%、「関西地方」17.3%、「中国地方」4.6%、「四国地

方」2.8%、「九州・沖縄地方」6.1%という結果であった。

3.3 探索的因子分析（公共スポーツ施設）

まず初めに、スポーツ施設を利用する目的47項目に対し、探索的因子分析（主因子法・Promax 回転）を行った。因子の負荷量は信頼性と妥当性を保つため、0.500以上を一定値とし、項目の削除を行った。因子分析の結果、スクリーンプロットの傾向から5因子を抽出し、各因子に対する負荷量が0.500未満の項目を削除した結果、14項目が削除され33項目5因子となった。第1因子（ $\alpha = 0.95$ ）は、「団体（サークル・チーム等）で活動できるから」「友人と交流したいため」「人間関係を築くため」「大会やイベントに参加・出場したいから」「仲間を新しくつくるため」「仲間

表1 調査対象者の属性

項目	公共スポーツ施設 (n=247)		民間スポーツ施設 (n=284)		
	度数	%	度数	%	
性別	男性	193	78.1	194	68.3
	女性	54	21.9	90	31.7
年代	20代	11	4.5	16	5.6
	30代	22	8.9	23	8.1
	40代	59	23.9	71	25.0
	50代	79	32.0	91	32.0
	60代	76	30.8	83	29.2

表2 調査対象者の属性

項目	公共スポーツ施設 (n=247)		民間スポーツ施設 (n=284)		
	度数	%	度数	%	
職業	会社経営者・役員・団体役員	3	1.2	14	4.9
	会社員・団体職員（正社員, 教員）	118	47.8	135	47.5
	会社員・団体職員（派遣, 契約社員）	15	6.1	11	3.9
	自営業・個人事業主・フリーランス	19	7.7	26	9.2
	自由業	3	1.2	1	0.4
	公務員	11	4.5	10	3.5
	学生	1	0.4	0	-
	主婦・主夫（専業）	17	6.9	35	12.3
	パート・アルバイト・フリーター	24	9.7	26	9.2
	無職・休職中・求職中	33	13.4	25	8.8
その他	3	1.2	1	0.4	
居住地域	北海道・東北地方	16	6.5	18	6.3
	関東地方	118	47.8	141	49.6
	中部地方	44	17.8	44	15.5
	関西地方	33	13.4	49	17.3
	中国地方	16	6.5	13	4.6
	四国地方	5	2.0	8	2.8
	九州・沖縄地方	15	6.1	11	3.9

に誘われるため」「競技力を向上させるため」「指導者や運動の上手な人に教えてもらえるから」「自己の記録を向上させるため」「流行りに沿えるから」「社会がスポーツを推奨しているから」の11項目で構成され、仲間や友人との交流、大会参加・競技力向上、流行や社会がスポーツを奨励している項目でスポーツ実施から受ける便益を表す内容であることから「積極的スポーツ志向」と命名した。第2因子 ($\alpha = 0.89$) は、「からだを丈夫にするため」「体力を維持させるため」「体力を増進させるため」「運動不足解消のため」「健康を増進させるため」「筋力を増強させるため」「健康を維持させるため」「筋力を維持させるため」の8項目で構成され、体力・健康・筋力や運動不足解消に関する項目を表す内容であるから「体力・健康」と命名した。第3因子 ($\alpha = 0.85$) は、「スタイルが良くなるから」「周りの人に自慢できるものが増えるから」「ロッカー・シャワー・更衣室などが完備されているから」「精神の修養のため」「美容のため」「使いたい用具・器具が使えるため」の6項目で構成され、ロッカー・シャワー・更衣室や美容、スタイルに関する項目で施設の綺麗さ自身の外見を表す内容であることから「気品思考」と命名した。第4因子 ($\alpha = 0.87$) は、「希望する運動ができるため」「運動・スポーツ自体が好きだから」「さわやかな充実感を味わうため」「生きがいのため」「生活が充実してくるため」「気分転換ができるため」の6項目で構成され、希望する運動ができる、運動・スポーツが好き、充実感、生きがいに関する項目を表す内容であることから「運動効果」と命名した。第5因子 ($\alpha = 0.87$) は、「施設が身近にあるから」「施設と距離が近いから」の2項目で構成され、施設との距離と身近にあるに関する項目を表す内容であることから「アクセシビリティ」と命名した。以上の5因

子に対し、Cronbach の α 係数を用いて信頼性を検証したところ、すべての因子において基準値 (≥ 0.70) 満たすことができた (第1因子: 0.95、第2因子: 0.89、第3因子: 0.85、第4因子: 0.85、第5因子: 0.87)。したがって、33項目5因子 (表3) において尺度の信頼性が確認された。

3.4 探索的因子分析 (民間スポーツ施設)

まず初めに、スポーツ施設を利用する目的47項目に対し、探索的因子分析 (主因子法・Promax 回転) を行った。因子の負荷量は信頼性と妥当性を保つため、0.500以上を一定値とし、項目の削除を行った。因子分析の結果、スクリーンプロットの傾向から7因子を抽出し、各因子に対する負荷量が0.500未満の項目を削除した結果、17項目が削除され、30項目7因子となった。第1因子 ($\alpha = 0.88$) は、「流行りに沿えるから」「社会がスポーツを推奨しているから」「治療やリハビリのため」「指導者や運動の上手な人に教えてもらえるから」「団体 (サークル・チーム等) で活動できるから」「スポーツが地域で盛んだから」の6項目で構成され、流行に沿えるや社会がスポーツを奨励している、地域で盛ん、治療・リハビリや上手な人に教えてもらえるという外から情報を得る傾向にある項目を表す内容であることから「評判」と命名した。第2因子 ($\alpha = 0.87$) は、「体力を維持させるため」「からだを丈夫にするため」「体力を増進させるため」「運動不足解消のため」「筋力を増強させるため」「健康を増進させるため」の6項目で構成され、体力・健康・筋力や運動不足解消に関する項目を表す内容であるから「体力・健康」と命名した。第3因子 ($\alpha = 0.91$) は、「友人と交流したいため」「人間関係を築くため」「仲間に誘われるため」「仲間を新しくつくるため」の4項目で構成され、

表 3 探索的因子分析 (公共スポーツ施設)

項目	F1	F2	F3	F4	F5	α
【積極的スポーツ志向】						
団体（サークル・チーム等）で活動できるため	0.989	0.097	-0.197	-0.004	-0.039	0.95
友人と交流したいため	0.979	0.050	-0.351	0.176	0.083	
人間関係を築くため	0.875	-0.046	-0.143	0.145	0.115	
大会やイベントに参加・出場したいから	0.814	0.034	0.105	0.048	-0.255	
仲間を新しくつくるため	0.793	0.039	-0.050	0.053	0.002	
仲間に誘われるため	0.752	-0.098	0.011	0.057	0.123	
競技力を向上させるため	0.727	-0.001	0.182	0.099	-0.119	
指導者や運動の上手な人に教えてもらえるから	0.641	0.061	0.249	-0.178	0.129	
自己の記録を向上させるため	0.616	0.019	0.313	-0.037	-0.167	
流行に沿えるから	0.589	-0.154	0.400	-0.171	0.115	
社会がスポーツを奨励しているから	0.516	0.003	0.432	-0.235	0.141	
【体力・健康】						
からだを丈夫にするため	-0.048	0.848	0.052	-0.116	0.037	0.89
体力を維持させるため	0.069	0.801	-0.130	-0.068	0.042	
体力を増進させるため	0.024	0.750	0.081	0.187	-0.263	
運動不足解消のため	0.062	0.730	-0.142	-0.053	0.109	
健康を増進させるため	-0.047	0.718	-0.045	0.089	0.097	
筋力を増強させるため	-0.012	0.632	0.366	0.014	-0.262	
健康を維持させるため	-0.104	0.568	-0.023	0.164	0.227	
筋力を維持させるため	0.100	0.547	0.165	-0.069	0.151	
【気品志向】						
スタイルが良くなるから	-0.160	0.072	0.719	0.096	0.244	0.85
周りの人に自慢できるものが増えるため	0.254	-0.116	0.639	0.088	0.020	
ロッカー・シャワー・更衣室などが完備されているから	-0.004	0.014	0.596	0.012	-0.005	
精神の修養のため	0.131	-0.078	0.590	0.217	0.023	
美容のため	0.088	0.156	0.566	-0.090	0.233	
使いたい用具・器具が使えるため	-0.183	-0.108	0.561	0.387	0.000	
【運動効果】						
希望する運動ができるため	-0.067	0.116	0.087	0.747	-0.061	0.87
運動・スポーツ自体が好きだから	0.222	-0.059	-0.019	0.710	-0.119	
さわやかな充実感を味わうため	0.011	0.008	0.228	0.585	0.163	
生きがいのため	0.119	-0.059	0.268	0.582	0.009	
生活が充実してくるため	0.084	0.151	0.104	0.554	0.089	
気分転換ができるため	-0.031	0.301	-0.125	0.540	0.154	
【アクセシビリティ】						
施設が身近にあるから	-0.041	0.143	0.189	0.038	0.637	0.87
施設と距離が近いから	0.074	0.075	0.198	-0.018	0.579	
	因子間相関	F1	F2	F3	F4	F5
	F1	-				
	F2	-0.061	-			
	F3	0.517	0.332	-		
	F4	0.286	0.570	0.332	-	
	F5	0.258	0.348	0.317	0.347	-

表4 探索的因子分析（民間スポーツ施設）

項目	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	α
【評判】								
流行に沿えるから	0.824	-0.041	0.067	0.024	0.050	-0.029	0.030	0.88
社会がスポーツを奨励しているから	0.781	-0.039	0.076	-0.012	0.072	-0.003	0.088	
治療やリハビリのため	0.780	-0.026	-0.187	-0.046	0.080	0.054	0.069	
指導者や運動の上手な人に教えてもらえるから	0.702	0.021	-0.006	0.064	-0.082	0.153	0.049	
団体（サークル・チーム等）で活動できるため	0.653	0.092	0.269	0.131	0.011	-0.056	-0.170	
スポーツが地域で盛んだから	0.633	-0.038	0.161	0.098	0.051	-0.021	0.132	
【体力・健康】								
体力を維持させるため	0.065	0.893	-0.025	-0.084	-0.069	0.049	-0.109	0.87
からだを丈夫にするため	0.011	0.850	0.014	0.001	0.054	-0.065	-0.026	
体力を増進させるため	-0.012	0.846	0.057	0.006	0.036	-0.133	0.138	
運動不足解消のため	-0.057	0.771	0.011	0.034	-0.061	0.042	0.011	
筋力を増強させるため	0.070	0.582	-0.102	0.076	0.013	0.024	0.174	
健康を増進させるため	-0.117	0.562	0.021	-0.034	0.150	0.057	0.048	
【交友関係】								
友人と交流したいため	-0.069	0.042	0.995	-0.043	-0.114	0.036	-0.073	0.91
人間関係を築くため	0.001	-0.048	0.782	0.112	0.017	0.046	0.060	
仲間に誘われるため	-0.060	-0.108	0.771	0.081	0.154	-0.058	0.069	
仲間を新しくつくるため	0.286	0.091	0.720	-0.085	-0.102	0.030	-0.048	
【競技志向】								
自己の記録を向上させるため	0.061	0.001	0.099	0.834	-0.127	-0.037	0.008	0.86
競技力を向上させるため	0.054	-0.062	0.045	0.824	0.030	-0.043	0.052	
運動技術を向上させるため	0.014	0.051	-0.025	0.675	0.034	0.084	0.068	
大会やイベントに参加・出場したいから	0.491	0.039	-0.125	0.537	0.013	-0.011	-0.256	
【設備条件】								
ロッカー・シャワー・更衣室などが完備されているから	0.182	-0.006	-0.022	-0.110	0.848	-0.169	-0.037	0.80
使いたい用具・器具が使えるため	0.094	0.044	-0.206	0.037	0.738	0.143	-0.056	
希望する運動ができるため	-0.310	0.091	0.038	0.287	0.597	0.087	0.028	
経済的に余裕があるから	0.185	0.001	0.244	-0.151	0.526	0.020	0.024	
【アクセシビリティ】								
施設と距離が近いから	-0.036	-0.084	0.059	0.101	-0.095	0.832	0.081	0.82
施設が身近にあるから	0.270	0.017	-0.082	-0.100	-0.074	0.786	-0.003	
望む時間に運動ができるため	-0.085	0.100	0.139	-0.055	0.293	0.604	-0.116	
【自己向上】								
スタイルが良くなるから	0.085	0.051	-0.016	-0.027	0.010	-0.038	0.843	0.82
美容のため	0.251	-0.027	-0.035	-0.033	0.114	0.057	0.655	
肥満解消・ダイエットのため	-0.053	0.228	0.009	0.067	-0.177	0.033	0.643	
因子間相関								
F1	-							
F2	0.007	-						
F3	0.604	0.032	-					
F4	0.568	0.187	0.604	-				
F5	0.406	0.476	0.344	0.461	-			
F6	0.415	0.397	0.316	0.440	0.675	-		
F7	0.394	0.496	0.165	0.346	0.578	0.523	-	

友人・仲間・人間関係に関する項目を表す内容であることから「交友関係」と命名した。第4因子 ($\alpha = 0.86$) は、「自己の記録を向上させるため」「競技力を向上させるため」「運動技術を向上させるため」「大会やイベントに参加・出場したいから」の4項目で構成され、記録の向上・大会参加・競技力向上に関する項目を表す内容であることから「競技志向」と命名した。第5因子 ($\alpha = 0.80$) は、「ロッカー・シャワー・更衣室などが完備されているから」「使いたい用具・器具が使えるから」「希望する運動ができるため」「経済的に余裕があるから」の4項目で構成され、ロッカー・シャワー・更衣室、用具・器具、金銭状況に関する項目を表す内容であることから「設備条件」と命名した。第6因子 ($\alpha = 0.82$) は、「施設と距離が近いから」「施設が身近にあるから」「望む時間に運動ができるため」の3項目で構成され、施設との距離と身近にあるに関する項目を表す内容であることから「アクセシビリティ」と命名した。第7因子 ($\alpha = 0.82$) は、「スタイルが良くなるから」「美容のため」「肥満解消・ダイエットのため」の3項目で構成され、スタイル・美容・ダイエットに関する

項目を表す内容であることから「自己向上」と命名した。以上の7因子に対し、Cronbachの α 係数を用いて信頼性を検証したところ、すべての因子において基準値 (≥ 0.70) 満たすことができた(第1因子:0.88、第2因子:0.87、第3因子:0.91、第4因子:0.86、第5因子:0.80、第6因子:0.82、第7因子:0.82)。したがって、30項目7因子(表4)において尺度の信頼性が確認された。

3.5 因子平均値 (公共スポーツ施設)

表5は、公共スポーツ施設の因子得点の平均値を示した結果である。第1因子「積極的スポーツ志向」3.30、第2因子「体力・健康」5.25、第3因子「気品志向」3.79、第4因子「運動効果」4.80、第5因子「アクセシビリティ」4.34という結果であった。

3.6 因子平均値 (民間スポーツ施設)

表6は、民間スポーツ施設の因子得点の平均値を示した結果である。第1因子「評判」2.92、第2因子「体力・健康」5.16、第3因子「交友関係」3.59、第4因子「競技志向」3.37、第5因子「設備条件」4.09、第6因子「アクセシ

表5 因子平均値 (公共スポーツ施設)

	第1因子 積極的スポーツ志向	第2因子 体力・健康	第3因子 気品志向	第4因子 運動効果	第5因子 アクセシビリティ
<i>M</i>	3.30	5.25	3.79	4.80	4.34
<i>SD</i>	1.47	0.99	1.28	1.13	1.53

M: 平均値, *SD*: 標準偏差

表6 因子平均値 (民間スポーツ施設)

	第1因子 評判	第2因子 体力・健康	第3因子 交友関係	第4因子 競技志向	第5因子 設備条件	第6因子 アクセシビリティ	第7因子 自己向上
<i>M</i>	2.92	5.16	3.59	3.37	4.09	4.09	4.05
<i>SD</i>	1.42	1.08	1.54	1.47	1.25	1.41	1.45

M: 平均値, *SD*: 標準偏差

ビリティ」4.09、第7因子「自己向上」4.05という結果であった。

3.7 因子と属性比較

3.7.1 性別

表7は、公共スポーツ施設の因子を「性別」で比較した結果である。「アクセシビリティ」は、「女性」の方が平均値が高くなり「男性」より有意に高い値を示した。

表8は、民間スポーツ施設の因子を「性別」で比較した結果である。「体力・健康」「アクセシビリティ」「自己向上」は、「女性」の方が平均値が高くなり「男性」より優位に高い値を示した。「競技志向」は、「男性」の方が平均値が高くなり「女性」より有意に高い値を示した。

3.7.2 年代

表9は、公共スポーツ施設の因子を「年代」で比較した結果である。「気品志向」は、「40代以下」の方が平均値が高くなり「50代以上」より有意に高い値を示した。

表10は、民間スポーツ施設の因子を「年代」で比較した結果である。「評判」「自己向上」は、「40代以下」の方が平均値が高くなり「50代以上」より有意に高い値を示した。

3.7.3 職業

表11は、民間スポーツ施設の因子を「職業」で比較した結果である。「交友関係」「競技志向」は、「定職あり」の方が平均値が高くなり「定職なし」より優位に高い値を示した。尚、公共スポーツ施設では有意な値は確認できなかった。

表7 因子（公共スポーツ施設）と性別の比較

項目	男性 (n=193)		女性 (n=54)		t 値	d 値
	M	SD	M	SD		
積極的スポーツ志向	3.27	1.52	3.45	1.29	0.87	0.08
体力・健康	5.22	1.00	5.35	0.91	0.86	0.14
気品志向	3.72	1.30	4.05	1.18	1.69	0.27
運動効果	4.73	1.18	5.05	0.90	1.84	0.31
アクセシビリティ	4.22	1.56	4.78	1.31	2.41*	0.39

M: 平均値, SD: 標準偏差 *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$
効果量 d の基準: $d = 0.2$ (効果量小), $d = 0.5$ (効果量中), $d = 0.8$ (効果量大)

表8 因子（民間スポーツ施設）と性別の比較

項目	男性 (n=194)		女性 (n=90)		t 値	d 値
	M	SD	M	SD		
評判	2.99	1.38	2.76	1.49	1.25	0.16
体力・健康	5.05	1.10	5.41	1.01	2.58*	0.34
交友関係	3.71	1.46	3.35	1.70	1.70	0.23
競技志向	3.58	1.38	3.04	1.59	2.50*	0.36
設備条件	4.06	1.19	4.16	1.37	0.56	0.07
アクセシビリティ	3.96	1.36	4.37	1.49	2.27*	0.28
自己向上	3.88	1.37	4.43	1.55	3.03**	0.38

M: 平均値, SD: 標準偏差 *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$
効果量 d の基準: $d = 0.2$ (効果量小), $d = 0.5$ (効果量中), $d = 0.8$ (効果量大)

表9 因子（公共スポーツ施設）と年代の比較

項目	40代以下 (n=92)		50代以上 (n=155)		t 値	d 値
	M	SD	M	SD		
	積極的スポーツ志向	3.48	1.68	3.20		
体力・健康	5.11	1.03	5.33	0.95	1.68	0.22
気品志向	4.01	1.36	3.66	1.22	2.04*	0.27
運動効果	4.73	1.23	4.84	1.07	0.75	0.09
アクセシビリティ	4.30	1.53	4.36	1.53	0.28	0.04

M：平均値，SD：標準偏差 *** $p<.001$ ，** $p<.01$ ，* $p<.05$
効果量 d の基準： $d = 0.2$ （効果量小）， $d = 0.5$ （効果量中）， $d = 0.8$ （効果量大）

表10 因子（民間スポーツ施設）と年代の比較

項目	40代以下 (n=110)		50代以上 (n=174)		t 値	d 値
	M	SD	M	SD		
	評判	3.18	1.61	2.75		
体力・健康	5.21	1.00	5.14	1.13	0.51	0.66
交友関係	3.74	1.67	3.50	1.46	1.25	0.15
競技志向	3.58	1.52	3.24	1.41	1.92	0.23
設備条件	4.22	1.38	4.01	1.16	1.31	0.17
アクセシビリティ	4.22	1.53	4.02	1.33	1.16	0.14
自己向上	4.42	1.48	3.82	1.38	3.48**	0.42

M：平均値，SD：標準偏差 *** $p<.001$ ，** $p<.01$ ，* $p<.05$
効果量 d の基準： $d = 0.2$ （効果量小）， $d = 0.5$ （効果量中）， $d = 0.8$ （効果量大）

表11 因子（民間スポーツ施設）と職業の比較

項目	定職あり (n=198)		定職なし (n=86)		t 値	d 値
	M	SD	M	SD		
	評判	3.02	1.46	2.67		
体力・健康	5.14	1.13	5.22	0.97	0.58	0.08
交友関係	3.72	1.53	3.31	1.55	2.05*	0.27
競技志向	3.50	1.47	3.08	1.42	2.20*	0.29
設備条件	4.13	1.26	4.00	1.23	0.83	0.10
アクセシビリティ	4.06	1.44	4.18	1.35	0.67	0.09
自己向上	4.05	1.47	4.05	1.40	0.02	0.00

M：平均値，SD：標準偏差 *** $p<.001$ ，** $p<.01$ ，* $p<.05$
効果量 d の基準： $d = 0.2$ （効果量小）， $d = 0.5$ （効果量中）， $d = 0.8$ （効果量大）

4. 考察

本研究は、スポーツを行う場である公共スポーツ施設と民間スポーツ施設利用者に着目し、施設を利用する目的を構造化して両施設の差異について検討することを目的とした。

探索的因子分析した結果、公共スポーツ施設では「積極的スポーツ志向」「体力・健康」「気品志向」「運動効果」「アクセシビリティ」の5因子が抽出された。民間スポーツ施設では「評判」「体力・健康」「交友関係」「競技志向」「設備条件」「アクセシビリティ」「自己向上」の7因子が抽出された。公共スポーツ施設より民間スポーツ施設の方が多くの因子に分けられ、民間スポーツ施設の利用目的の方が多様化していることが伺える。民間スポーツ施設は、民間企業が営利目的で施設を運営しているため、社会環境やスポーツに対するニーズの変化に応える企業努力が利用目的の多様性に繋がっていると示唆される。

スポーツの実施状況等に関する世論調査（スポーツ庁、2018）¹⁸⁾において、「運動やスポーツを実施した理由」の上位項目は、「健康のため」「体力増進・維持のため」と報告され、健康や体力の維持増進がスポーツ実施の理由に大きな影響を与えている。さらに、松永（1999）は、民間スポーツ施設では、体力や筋力向上、健康維持・ダイエット、シェイプアップ等の自らの目標を達成するプログラム作りやサービスの提供をスタッフが支援することが期待されるとし、公共スポーツ施設は、地域住民の健康増進・体力向上、スポーツを実施した人との交流をメインに考えている⁹⁾と指摘している。このように、民間スポーツ施設はプログラムやサービス提供、公共スポーツ施設は地域住民のヘルスケアと視点は違うものの、体力や健康の維持増進はスポーツ施設マネジメントの検討からも核となる。

本研究では、「体力・健康」の因子が両施設ともに抽出され、ほぼ同様の項目であり、両施設とも因子平均値で最も高い値を示していた。よって、スポーツは健康及び体力の保持増進させる身体活動とされるよう、スポーツ施設を利用する目的の根源は健康や体力であり、スポーツ施設マネジメントの検討していくうえで最も基盤としなければならない。

両施設とも同様の因子が抽出されたのは「アクセシビリティ」である。民間スポーツ施設で抽出された「アクセシビリティ」は、望む時間に運動ができるという項目が公共スポーツ施設の因子項目と比べ追加されている。公共スポーツ施設の開館時間はある程度の制限があるが、民間スポーツ施設は、利用者の生活環境の変化に伴い早朝や深夜または24時間営業しているところは少なくないことが影響していると考えられる。また、「アクセシビリティ」は、両施設とも女性に有意差があることが確認できた。これは、憶測に過ぎないが、本研究の調査対象者の年代は40代以上や主婦層が多く、家事等により生じる隙間時間をスポーツ施設利用に活用しているのではないかと予想される結果であった。しかし、本研究においては施設の利用時間までの調査に至っておらず、さらなる検討が必要と考えられた。

さらに、民間スポーツ施設では、「交友関係」「競技志向」「設備条件」「自己向上」が単独の因子として抽出されているが、公共スポーツ施設で抽出された因子項目を確認すると、民間スポーツ施設の因子が合わさったように構成され、「交友関係」と「競技志向」、「自己向上」と「設備条件」の項目の結びつきが構造に表れている。つまり、民間スポーツ施設の利用目的は明瞭に区別され、民間スポーツ施設で得られた2つ以上の要因が公共スポーツ施設の利用目的を形成していること

が明らかとなった。

フィットネス会員の継続に関する縦断的事例分析を行った研究¹⁹⁾において、継続者と退会者を比較した結果から、退会者は運動効果、交友関係が低いと指摘している。本研究の民間スポーツ施設の利用目的から「交友関係」因子が抽出され、定職に就いている利用者との間に有意差が認められている。このように、民間スポーツ施設は、職場以外での交友の場として利用されていることが推察され、民間スポーツ施設は施設運営を検討するうえで交友関係を念頭におきマネジメント材料とすることは重要な要素であると考えられる。また、公共スポーツ施設のライフスタイルの構造化した研究⁶⁾で、スポーツを実施する上で欠かせない交友関係という視点からマネジメントしていくことの必要性が述べられているが、中高年にとっては必ずしもそうではないとも指摘している。さらに、公共スポーツ施設の常連は、社会学的な特徴に注目すれば、無職者という多くの余暇時間を持つ存在である²⁰⁾ことも指摘している。さらに、公共スポーツ施設の交友関係の項目を含む因子は、「積極的スポーツ志向」であり、交友関係以外の項目は競技力向上や流行が含まれ、中高年は交友関係をあまり重要視されていないと報告があることから、競技力や流行から交友関係と結びつくようなマネジメント方法を検討していくことが必要だろう。しかしながら、無職者の余暇時間を多く持つ利用者が公共スポーツ施設の常連ということも報告されている。本研究の調査対象者の定職なし層（「学生」「主婦・主夫」「パート・アルバイト・フリーター」「無職・休職中・求職中」合計）は公共スポーツ施設が30.4%、民間スポーツ施設が30.3%と約3割が存在し、調査時期がコロナ禍でありこのような結果となった可能性が考えられ、継続的な調査を実

施していくことが必要である。

公共スポーツ施設の満足度に与える要因を明らかにした研究²¹⁾では、総合的な満足度と更衣室の設備・シャワールーム及び運動器具の種類に関連がみられたと報告²¹⁾している。さらに、若年層が多く退会し、健康志向よりもシェイプアップなどの美容傾向が強い傾向にあると報告¹⁹⁾している。このように、設備条件や自己向上は、施設の満足度や施設継続に影響を与える要因であるとも考えられる。民間スポーツ施設で得られた「自己向上」の項目が含まれている公共スポーツ施設の因子は「気品志向」であり、その中には、利用する施設の設備が関連しているため、公共スポーツ施設マネジメントは、美容やスタイルの維持・向上させる運動器具の提供とともにロッカー・シャワー・更衣室等の設備の使いやすさ・清潔さを保つことが求められる。また、民間スポーツ施設では、「自己向上」と「施設条件」の因子が抽出されているように、自己向上や施設条件は区別され利用目的に影響を及ぼしていることが明らかとなった。

民間スポーツ施設と公共スポーツ施設を比べ、特に特徴的な結果となったのが、公共スポーツ施設の希望する運動ができる、運動・スポーツが好き、充実感、生きがいに関する項目から構成される「運動効果」因子である。公共スポーツ施設は「住民の福祉を増進する目的をもつてその利用に供するための施設（地方自治法第244条）」と定められ、公共スポーツ施設は、住民の福祉を増進する施設であり、運動参加の動機付けに一躍を担っていると考えられる。さらに、公共スポーツ施設利用者のライフスタイルを構造化した研究⁶⁾で「充実感」の因子が抽出され、生活や人生が有意義で成長の変化を実感している傾向にあると指摘している。本研究で明らかになったように、民間スポーツ施設の利用目的は多

様化している傾向にあり、公共スポーツ施設の利用目的は、ライフスタイル同様、運動やスポーツが好きで生きがいであり、生活に充実感をもたらす目的のために施設を利用する層が存在する。

5. まとめと今後の課題

本研究は、公共・民間スポーツ施設利用者に着目し、施設を利用する目的を構造化し、差異について検討した。

本研究で明らかとなったことは以下に集約される。

- (1) 公共スポーツ施設の利用目的について因子分析した結果、「積極的スポーツ志向」「体力・健康」「気品志向」「運動効果」「アクセシビリティ」の5因子が抽出された。
- (2) 民間スポーツ施設の利用目的について因子分析した結果、「評判」「体力・健康」「交友関係」「競技志向」「設備条件」「アクセシビリティ」「自己向上」の7因子が抽出された。
- (3) 公共スポーツ施設・民間スポーツ施設ともに、因子得点で最も高い値を示したのは「体力・健康」であった。
- (4) 「体力・健康」「アクセシビリティ」の因子は両施設とも抽出された。
- (5) 民間スポーツ施設の利用目的は明瞭に区別され、民間スポーツ施設で得られた2つ以上の要因が結びつき、公共スポーツ施設の利用目的を形成している因子があった。
- (6) 「運動効果」の因子は公共スポーツ施設のみで抽出された。

本研究は、構造化された基本的情報のみを整理したが以下の課題が挙げられた。

本研究で調査に至らなかった、施設の利用時間等を継続して調査し、より詳細な施設利

用目的を検討するため、各施設の類型化に着手する必要性もある。また、施設利用を阻害する要因を検討し、より具体的にスポーツ施設マネジメント研究の一助となるよう調査を実施していく必要がある。さらに、本研究において挙げられた課題は、1) 公共スポーツ施設・民間スポーツ施設ともに男女比に差が生じた。2) 学校・体育スポーツ施設及び大学・高等専門学校体育施設の利用目的の検討まで至らなかった。2点については、今後検討していく。

【注】

注) 原田・菊池 (1990) の研究²²⁾において、30代は男女ともに健康意識が低く、男性は、40代から50代にかけ自信を回復するが、女性は、下降を続けると指摘されている。さらに、阿部ら (2021) の研究⁶⁾では、スポーツ施設利用者のライフスタイルを40代以下と50代以上、定職の有無から検討している。これらの先行研究から本研究においても、40代以下と50代以上、定職ありと定職なしで分析した。

参考資料 スポーツ施設を利用する目的 (47項目)

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1. 仲間を新しくつくるため | 25. 精神の修養のため |
| 2. 体力を維持させるため | 26. 周りの人に自慢できるものが増えるため |
| 3. 大会やイベントに参加・出場したいから | 27. 余暇時間が増えたから |
| 4. 筋力を増強させるため | 28. 美容のため |
| 5. 家族との交流のため | 29. さわやかな充実感を味わうため |
| 6. からだを丈夫にするため | 30. 健康を増進させるため |
| 7. 生活が充実してくるため | 31. 運動・スポーツ自体が好きだから |
| 8. 体力を増進させるため | 32. 人間関係を築くため |
| 9. 運動不足解消のため | 33. 競技力を向上させるため |
| 10. 友人と交流したいため | 34. 施設と距離が近いから |
| 11. 団体(サークル・チーム等)で活動できるため | 35. 筋力を維持させるため |
| 12. 流行に沿えるから | 36. 肥満解消・ダイエットのため |
| 13. 社会がスポーツを奨励しているから | 37. ストレス解消のため |
| 14. 治癒やリハビリのため | 38. 自分に自信が持てるため |
| 15. 指導者や運動の上手な人に教えてもらえるため | 39. 仲間誘われるため |
| 16. 施設が身近にあるから | 40. 生活に変化をもたせるため |
| 17. リラクゼーションのため | 41. ロッカー・シャワー・更衣室などが完備されているから |
| 18. スタイルが良くなるから | 42. 経済的に余裕があるから |
| 19. スポーツが地域で盛んだから | 43. 望む時間に運動ができるため |
| 20. 生きがいのため | 44. 使いたい用具・器具が使えるため |
| 21. 自己の記録を向上させるため | 45. 健康を維持させるため |
| 22. 費用が安い | 46. 希望する運動ができるため |
| 23. 運動技術を向上させるため | 47. 気分転換ができるため |
| 24. 若々しくなるため | |

【文献】

- 1) スポーツ庁：スポーツ基本法、2011
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop01/list/detail/1372293.htm (参照日2022年8月24日)
- 2) 文部科学省：スポーツ基本計画、2022
https://www.mext.go.jp/sports/content/000021299_20220316_3.pdf (参照日2022年8月18日)
- 3) スポーツ庁：平成30年度体育・スポーツ施設現状調査結果の概要、2018
https://www.mext.go.jp/sports/content/20200422-spt_stiiki-1368165.pdf (参照日2021年8月18日)
- 4) 神野賢治、田島良輝、井上明浩：公共スポーツサービスの利用者に関する研究－利用者の特性と満足度に着目して－、金沢星稜大学人間科学研究、2 (2)、53-61、2009
- 5) 石井康宏、石川旦：スポーツ施設の利用状況と利用促進課題－公共温水プール施設について－、仙台大学大学院スポーツ科学研究科研究論文集、1、1-7、2000
- 6) スポーツ庁：平成30年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査について～成人の週1日以上スポーツ実施率は55.1% (29年度51.5%) へ向上～」、2019
<https://www.mext.go.jp/sports/content/>

- 1413747_001_1.pdf (参照日2022年8月25日)
- 7) 秋吉遼子、山口康雄：公共スポーツ施設におけるサービス・クオリティ、利用者満足、及び行動意図の関連性に関する実証的研究、神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要、6 (2)、1-10、2013
- 8) 阿部征大、清宮孝文、依田充代、日比野幹生：公共スポーツ施設利用者のライフスタイル構造に関する研究：東京都A区の公共スポーツ施設に着目して、運動とスポーツの科学、26 (2)、149-160、2021
- 9) 阿部征大、清宮孝文、依田充代：スポーツ施設利用者のスポーツ行動に関する一考察、日本体育大学紀要、50、1111-1119、2021
- 10) 宮内邦典、丸山富雄：民間スポーツクラブ会員の社会階層とライフスタイルに関する研究、仙台大学大学院スポーツ科学研究科研究論文集、5、27-35、2004
- 11) 松永敬子：民間スポーツ施設における潜在利用者の特性に関する研究、『人間科学研究』文教大学人間科学部、21、121-129、1999
- 12) 仲澤眞：スポーツサービス業におけるプロダクトの構造に関する研究、スポーツ産業学研究、1、23-36、1991
- 13) 藤井和彦、石川智：「個人的運動利用者」の実態と特性に関する研究、白鷗大学教育学部論集、10 (2)、357-375、2016
- 14) 長岡雅美、赤松喜久：地域住民のスポーツ行動の特定化に関する基礎的研究－Y市における市民を対象とする調査結果より－、大阪教育大学紀要、第IV部門、46 (2)、207-219、1998
- 15) 永田靖章、市野望治、川合勇治、岡部育世、森奈緒美：地域における運動施設開放の整備・運営に関する基礎的研究－住民の運動者行動を手がかりとして－、愛知教育大学研究報告、35、45-58、1986
- 16) Hair, J. F., Black, W., Babin, B., Anderson, R. E., and Tatham, R. L.: Multivariate Data Analysis (5th ed.), Prentice Hall, 1998
- 17) 小塩真司：SPSSとAmosによる心理・調査データ解析－因子分析・共分散構造分析まで－、東京図書、296、2018
- 18) スポーツ庁：令和3年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」について、2021
https://www.mext.go.jp/sports/content/20200507-spt_kensport01-000007034_1.pdf
 (参照日2022年8月27日)
- 19) 中路恭平：フィットネスクラブにおける会員の顧客満足と会員継続に関する縦断的事例分析、体育・スポーツ経営学研究、20 (1)、1-15、2006
- 20) 中澤篤史：公共スポーツ施設の〈常連〉とはどのような人たちなのか－横浜市における質問紙調査結果の分析を通して－、東京大学大学院教育学研究科紀要、46、360-370、2006
- 21) 北見好・佐野昌行・久木田謙介・富田幸博：公共スポーツ施設に対する満足度に影響を与える要因－世田谷区内公共温水プールの調査から－、日本体育大学紀要、41、101-110、2011
- 22) 原田宗彦・菊池秀夫：スポーツ参加者のライフスタイルに関する研究、体育学研究、35、241-251、1990